

# 《広報編集部よりお知らせ》

## 災害リハビリテーション委員会 安否確認回答率

発災翌日の4月18日と4月22日に**士会公式ライン**にて、**安否確認**を行い、回答率は**37.9%**でした。落下物などはあったものの、会員の皆様に怪我はない状況でした。

**安否確認は、災害時の皆様の状況把握や体制構築を目的**に行っています。多くの会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

### 取材者から会員の皆さまへ

近年は全国で非常に多くの自然災害が発生しており、県内においても、豊後水道地震のみではなく、令和6年8月上旬には日向灘を震源とする地震が発生し、8月下旬には台風10号により全国的にも大きな被害が起きました。

皆様も不安な日々を過ごし、様々な備えをしたのではないのでしょうか？自身が被災したら…家族…大切な人…職場…。どのような備えや行動ができるのか？そんなことを思いながら読んでみてください。

# 豊後水道地震の経験を通して 〜起ってからでは防げない。関心を持つことから始めよう〜

## 高知県宿毛市震度6弱観測

Q

発災時の状況を教えてください。

A 自身の生活

寝室にいた時に強い揺れを感じました。私は出入口の確保を行ってから、自身の安全確保をしました。

普段からの**防災対策**として、**食器棚を突っ張り棒で固定**することや、**重たい食器などは下に移す**など日頃から気を付けていたこともあり、写真立てや置き時計、グラスが数個落ちた程度の被害で済みました。他の方々の中には、対策をされていない箇所物が床へ散乱するなど大変な状況だったと伺っています。

A 地域の状況

発災直後は、外に出て様子を伺う方がいらっしやいました。また、古い屋根瓦の家は一部瓦が落ち、道路に散乱していました。市内中心市街地では**日が経つにつれて**、屋根瓦にブルーシートをかけている家が目立ち、**被害の大きさを痛感**しました。



Q

発災後の所属施設の状況を教えてください。

A 発災後の体制構築や被害状況

まずは、リハビリテーションスタッフの**安否確認**を行いました。その後、事務次長への連絡を行いました。当院の災害マニュアルでは震度6以上で全員集合が原則となつていますが、被害状況は少ない状態と思われ、リハビリスタッフが出勤する必要性は認めませんでした。私は部署責任者であること、通勤距離が近いので、災害マニュアルに沿い発災から約30分後に職場に向かいました。

すでに夜勤の職員が、臨時の対策本部を立ち上げ、**各病棟や建物の被害状況の確認**作業を行い**情報収集**に努めていました。エレベーターの急停止、天井が剥がれていた、パソコンや物品が落ちる：などはありませんでしたが、作業療法室を含め大きな被害はありませんでした。その後、勤務外で出てきた防災士の資格をもつ看護師が、**広域災害救急医療情報システム（EMIS）への入力**を行いました。ちなみに当院では定期的にEMIS訓練を実施しており**職員誰もが入力できるように訓練**しています。

発災が夜間帯であったこともあり、翌日に各部署の責任者が集まり、改めて被害状況の報告を行いました。

災害リハビリテーション委員会  
澤松 美香氏  
(聖ヶ丘病院)

## A 患者様の状況

発災直後は患者様が**不安を訴える**ことがあり、中にはしばらくスタッフが付き添ったり、電気をつけて休まれた方もいました。患者様に怪我はありませんでした。翌日から通常通り精神科作業療法  
の活動を行い、関わる中で**心理面の確認**を行いました。翌日もすっかり覚えていて話をされていた方は結構いらっしゃいました。その後も余震があり、「怖いね」と聞かれることはありました。

## Q

災害への備えや、今後の取り組みについて教えてください。

## A 自身の取り組み

私の車には、マットレスや折りたたみ式のウォータータンク・マスク・簡易トイレなど**一日車泊できる準備**をしています。自宅の備蓄では食品や防寒用品・簡易トイレを準備しており、**食品**に関しては**半年に一度は見直し**を行うようにしています。

私は数年前に防災士の資格を取得しており、医療従事者の研修会だけではなく、地域の取り組みに関するワークショップなどに参加できるよう心がけています。



## A 所属施設の取り組み

大規模災害対策**マニュアルの見直し**を早期に行うとともに、備蓄の確保を十分に行うために、業者と連携し、職員に啓発を行っています。また、研修会への参加や、備蓄品がすぐに準備できるように保管場所の検討を行い新たに設置し直しました。

当院での**リハビリスタッフの役割は、公衆衛生や避難者・帰宅困難者の対応**なっています。今後は**発災直後の初動対応**において、**具体的な検討**を行い、取り組んでいきたいと考えています。また非常時の経路やライフラインの確認などは一回で覚えることは難しく、災害時を想定し、繰り返し訓練を行うことが大切だと思います。

## Q

日々の備えをするために大切なことを教えてください。

## A

各地域の**防災イベント**は、子どもから大人まで楽しむことができ、防災グッズや食品などの配付・起震車や豪雨体験などがあります。イベントを通して**災害・防災に触れていただくことで知見が広がる**と思います。災害は必ず起こるために、皆が共通認識を持ち、取り組んでいくことが重要であると思います。まずは**関心を持つ**ことが一番大切です。

取材・文責：広報編集部 田上 大祐（仁淀病院）

## ～取材を終えての感想～

今回、地震発生後の状況や対応などをお伺いし、改めて大変な状況であったのだと感じました。地震発生時に自身や周囲の方の安全を守る行動をするためには、咄嗟に冷静な判断が必要であり、もし私がその場面になった時に冷静に判断できるのか不安を感じました。

澤松氏は、自宅の備蓄や家具の転倒対策など様々な備え・対策をされており、日々の取り組みが非常に大切だと思いました。また、日頃から災害についての意識を高めることで地震発生時にも冷静に必要な行動ができると感じました。所属施設でも、直後から患者様や院内の被害状況などの情報収集をして、状況に応じた様々な対応をされており、日頃から組織としての備え・対策、発生時の対応などの情報を共有することが大事な取り組みであると感じました。

地震はいつ発生するかわかりません。地震発生時やその後の行動を円滑にするためには、日頃から災害についての備え・対策をすること、地域で取り組まれている防災についての情報などに意識を向けることが重要であると改めて感じました。

取材同行者：広報編集部 森 祐輔（だいいちリハビリテーション病院）

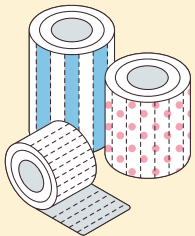
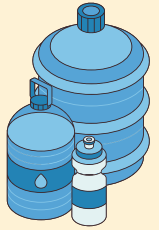
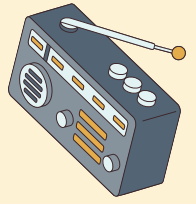
# 皆様の備蓄は足りていますか？ 澤松氏の準備内容



①

## 防災リュック

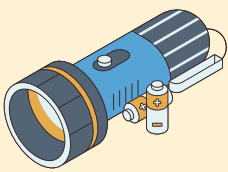
携帯の充電器は常にカバンに入れて持ち歩いています。



②

## 自宅の備蓄品

食品は半年に一度は見直しをします。防災イベントでもらった物も多くあります。カセットコンロやガスボンベは別に收容しています。発電機や携帯食器などがまだ不足しています。



③

## 車内の備蓄品

1日車泊できるように、マットレスやウォータータンク、携帯トイレなどを準備しています。他にも軍手・ホイッスル・蛍光灯・絆創膏・断熱シート・歯磨きシート。概ね100均一で揃えられます。

